

▲ ▲ ▲ 交流山行「相州大山 見晴台」集中登山 ▲ ▲ ▲

～with Coronaでのルート分散・集中登山の試み～

(報告) K

新型コロナウイルスの感染が国内でも1月に確認され、感染の波は、一、二、三波と続き、今なお収束は見通せないところです。コロナ禍の続くなか、日々の生活や働き方のあり様も随分と変わりました。シリウスの活動においても、会員が一堂に会する例会や山行は難しい状況が続いています。

他方、感染防止に留意した少人数での個人山行は、少なからず独自に行われているところです。私の場合も、体調を崩した後のリハビリ的的山行で高尾山から陣馬山まで歩いてきました。途上、思いがけず小仏城山でTさんに会い、陣馬山までがご一緒させて頂き、大変有意義な山行となりました。

その際に、こうした延長線上で、コロナ渦での会山行の一形態として、一定の集中地を定め、複数の登山ルートから分散して登山、特定の時間帯に集合、交流、その後に再び分散し下山する方式で、密を避けた山行もありかなと、漠然と思った次第です。

Oさん、FJさん、NYさん他の方々に背中を押され、企画しました。当初は、集中地は、山のなかでもあり、工夫次第では密を避け、忘年会や新年会的に飲食を含めた交流が可能なのではと考えたところですが、11月に入り、急速に感染の拡大が進み、飲食がクラスターの主な要因の一つとされ、リスクのある密な飲食は断念しました。

今回は、試みの山行でもあり、まずは安全に実施することを主眼に、集中地は、近郊で日頃の親しみがあり、多様な登山ルートを選択でき、かつ交流のスペースも見込まれる「大山見晴台」に、集中地では密な飲食は避け、交流時間も1時間30分に絞り込みました。

当日は、大山「紅葉まつり」の最終日ということで大山ケーブル方面のバスは満席で座れない乗客もいました。大山寺の紅葉も最後の残りとのコントラストのある黄葉も見られました。天候は、晴天とはいきませんでしたが、見晴台からは大島方面まで遠望出来ました。

集中地の見晴台では、早い方は11:00頃に、遅い方でも12:40頃までに、予定時間内に全員が集合することができました。次々に各ルートから笑顔で到着する様は、久方ぶりの顔合わせでもあり、新鮮で、チョット感激的でした。各自持参の昼食や用意したホットコーヒーなどを取りながら、13:15頃まで歓談し、各自予定のコースを無事下山しました。



(大山寺 最後の紅葉)



(見晴台から江の島、三浦半島、遥かに房総半島まで望めた)



(集合地・見晴台の様子)

感染防止のために人が動くことや密な空間や場所を避けるという要件は、人の本質的な活動に関わることでもあり厄介なウイルスです。コロナ以前の日常に戻ることは難しいと言われていますが、新たな日常に対応して、選択肢の一つとしての試みでした。

次回、交流山行につきましては、山域や実施方法についてご意見を頂いているところですが、これらを踏まえ、より適切な感染予防対策のもと、プラスαの魅力も加えた山行を形作れるようにと期待しております。

1. 日程

- (1) 日 時 : 2020年11月29日(日)
- (2) 山 域 : 丹沢 大山 見晴台
- (3) 集合地 : 大山 雷ノ峰尾根「見晴台」
- (4) 交流時間 : 12:00~14:30

2. 参加者

- (1) 参加人数 : 11名(全員「見晴台」集中地到着)
- (2) 参加者 : I、O、K、S、NY、T、NK、FKJ、FKY、FS、FJ

3. 参考登山コース()内は行動時間

- <A>大山ケーブルバス停~男坂 OR 女坂~阿夫利神社~見晴台 (1:20)
- 大山ケーブルバス停~男坂 OR 女坂~阿夫利神社~大山~見晴台 (2:55)
- <C>蓑毛バス停~ヤビツ峠~イタツミ尾根~大山~見晴台 (3:15)
- <D>日向薬師バス停~ふれあい学習センター~見晴台 (1:40)
- <E>広沢寺温泉~不動尻~唐沢峠~大山~見晴台] (3:30)

4. 集合地へ所要時間

- (1) 集中地までの所要時間は、各コースにより1時間20分~3時間30分
 - (2) 集中地から下山所要時間は、各コースにより1時間~2時間30分
 - (3) 登下山の全体の所要時間は、各コースにより2時間20分~6時間00分
- *集中地への到着時間帯は、11:00~12:40間に全員が到着した。

5.交流時間帯は、11時00分から13時15分であり、各会員の到着時間により異なるが、最大交流時間は2時間15分であった。

6.集中地「見晴台」について

- (1) 大山山頂は寒かったとのことであったが、見晴台では、概ね、寒さは回避できたが長時間滞在には、季節柄限度がある。
- (2) 見晴台には、6人掛、14テーブルあり、その内、隣同士の2テーブルを確保した。休憩者が短時間で入れ替わることからテーブルの確保は、比較的容易であった。

7.集合地における会食について

- (1) 昼食は、会員各自が用意、持参した。
- (2) 到着時に個包装のコーヒー、紅茶を提供した。

8.新型コロナ感染防止の注意事項

新型コロナウイルス感染防止のため、以下に留意して実施した。

- (1) 発熱や咳など体調に異常がないかを確認のうえお越し下さい。
- (2) 集中地での交流・歓談時には、マスクを着用し大声での会話を控えて下さい。
- (3) テーブル席では会員同士できるだけ距離をとってお座り下さい。
- (4) 消毒液等による手指の消毒については各自ご用意ください。
尚、消毒用アルコールを持参する場合、火気の近くでのご利用は厳禁です。

9. 今後の課題

- (1) 集中地については、コロナ禍のなか遠出は難しいことから、近郊の山城での所要時間、交流場所でのテーブルやスペースの確保を考慮する必要がある。
- (2) 飲食については、生ものを調理するのは適切ではないが、相当量の湯を一元的に確保することで、麺類、レトルト食品、コーヒー等の飲み物を、容易に安全に作ることができ、会食については工夫の余地がある。
- (3) 今回、魔法瓶(1.6L)を持参したが、随時、コンロで湯を沸かし魔法瓶に補給することで必要に応じて、効率的に熱い湯を提供することができ、湯を最大限に利用した飲食方式を検討できるのではないかと。
- (4) 「大山」においてさえ、登・下山したことの無いルートはあり、近郊での集中登山等を通じて、会山行の新たな魅力を引き出す試みとしてはどうか。

10. 参加者からの意見

- (1) 大山ケーブルを使ったが、やはりケーブル駅や伊勢原からのバスは混雑していた。たまたま、紅葉祭りの最終日の休日と重なった期日であったためと思うが、できれば登山口までの交通機関や登山口が混雑しない場所や期日を選べば密が避けられるのではないかと。



(大山三峰山)

- (2) また、日本登山医学会のコロナ指針ではパーティー人数の上限を10名と指導しているが、10名

近くが一団として歩くと、やはり狭い登山道では密状態を惹起するのではないか。

- (3) 参加者を数名に絞るといふのでは会山行には不向きとなる。したがって、10名近い人数以上の場合には、数名ずつにパーティーを分割して歩行の時刻差を設けるようにしたら良いのではないか。
- (4) きついコースになると、呼吸が荒くなって、それだけ呼吸時の飛沫が飛びやすくなる。このようなルートをパーティーで歩く場合には、通常の歩行標準時間よりも長い時間を掛けてゆっくり歩いて、呼吸拍数を抑えることも必要である。
- (5) 会山行とすれば、上記のような制約が必要になる。行く日程や人数が限られる結果になり、開催の機会が制限される。これを補完する意味から『この指山行』（準会山行）も奨励する方法もある。

(了)